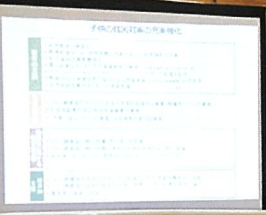


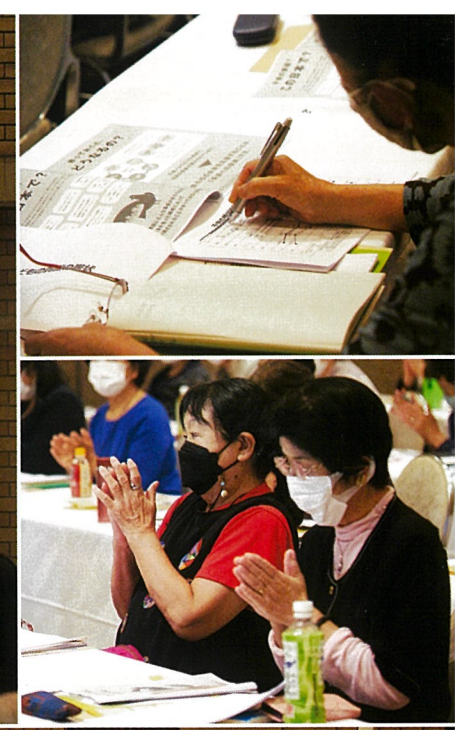
令和4年度

生活学校・生活会議運動 全国大会

生活学校・生活会議運動
全国大会



写真右上) 花木啓祐(公財)あしたの日本を創る協会会長
右下) 榊誠(公財)あしたの日本を創る協会理事長
左上) 和田真穂内閣府参事官補佐
左下) 祝前清美全国生活学校連絡協議会会長



令和4年9月22日、東京都新宿区の「ホテルグランドヒル市ヶ谷」において、「令和4年度生活学校・生活会議運動全国大会」新たな全国運動の展開」が開催された。全国各地の生活学校・生活会議運動等で地域づくりに取り組む方、行政関係者など、約80人が参加した。同大会はコロナ禍により令和2・3年度と中止になったため、3年ぶりの開催となった。

開会行事では、主催者として、花木啓祐・公益財団法人あしたの日本を創る協会会長より挨拶があった。

続いて基調講演が行われた。内閣府政策統括官(政策調整担当)付参事官(子どもの貧困対策担当)付参事官補佐の和田真穂氏より「子どもの貧困対策について」をテーマに講演があった。講演の中では、子どもの貧困の現状について、子どもの生活状況調査から明らかになった、子どもの学習状況や世帯収入別の進学希望状況などについて報告。貧困の次世代への連鎖を断つことが必要であり、子どもの貧困対策の充実強化として、教育、生活、保護者の就労、経済面の分野で支援する施策について話があった。また、地域における支援の連携の促進として、官公民協働プロジェクト「子供の未来応援国民運動」や、行政の制度を活用した活動事例についての紹介がされた。民間団体による地域での子ども支援が果たす役割は非常に大きく、支援の連携が求められているとのことであった。続いて、神誠・あしたの日本を創る協会理事長、祝前清美・全国生活学校連絡協議会会長より、全国運動「食を通じた子どもの居場所づくり」について、現状報告と今後の運動の方向性に関する説明があった。

その後、二つの分科会が開催された。

第1分科会「全国運動の推進」、第2分科会「児童虐待問題について」は、テーマが互いに関連するため両者合同の分科会となった。厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課虐待防止対策推進室の柴田光

毅氏より、児童虐待の現況、定義や行為類型、市区町村の子育て支援施策、児童虐待発生時における児童相談所の対応、国が実施する子どもの生活・学習支援事業等について講演があった。また、生活学校・生活会議が取り組む全国運動は「食を通じた子どもの居場所づくり」をテーマとして、子どもや保護者と密接に関わる活動が行われていることから、児童虐待の予防・早期発見に寄与できるとの話があった。行政が把握できなかったケースについても早期発見する効果が期待できるとのことであった。

第3分科会「地域づくり」では、令和3年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で総務大臣賞を受賞した青森県八戸市「まちぐみ」の山本耕一郎氏より事例発表があった。商店街の店舗の外観を装飾する「お店プロジェクト」や、「高校生とつくる南部せんべいカフェ」などの取り組みを紹介。メンバーそれぞれが自分の得意なことで活動に参加し、生き生きと活躍できるように心がけているとのことであった。

また、岡山県岡山市「津島生活学校」の片山靖子氏からは、環境問題や子育て支援など様々な活動に長年取り組まれてきた中で、「協力と連携」を大切にされてきたとの話があった。また、年齢を重ねて体力的にできないことが増えても否定的に捉える必要はなく、核家族で育った若い世代にそういった姿を見せることも大切であるとの見識を示された。今後の展望については、各世代がそれぞれできることをして、協働しながら絆をつないでいきたいと語った。

交流のつどいは、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で行われた。3年ぶりに全国大会が開催されたことから、参加者からは再会を懐かしむ声が聞かれた。久しぶりに直接顔を合わせることで、お互いの活動の情報交換ができ、良い刺激がもたらされた。感想が寄せられた。

